

# オペラ「高山右近一至福の王者」

～～剣か愛か～～

**8月1日(火) 20時～ 於；ジェス教会（入場料：無料）**

東京オペラ協会は、1992年、一般謁見で、ヨハネ・パウロ2世にオペラ「忘れられた少年一天正遣欧少年使節」を数曲演奏しました。その際、法王から「このオペラで世界平和のために尽くしてください」と暖かく励ましていただきましたので、その後も世界平和を願ったオペラ公演を世界各地で続けています。

このオペラ「高山右近」は、原作は有名なカトリック作家の加賀乙彦氏、作曲はフィリピンの神父でクラシック音楽界第一人者の作曲家マヌエル・マランバ教授、台本は東京オペラ協会総監督の石多エドワード氏により、2003年にフィリピンのサント・トーマス大学、在日本フィリピン大使館との共催（カトリック中央協議会は後援）によりできた作品です。

このオペラでは「剣を取るものは皆、剣で滅びん！」という聖書にある世界平和への強いメッセージが一貫して日本語で歌い上げられます。

そして、右近がマニラに追放されても死に至るまで、ライ病患者などの病人を助け続け、「剣を置き手を差し伸べよ、貧しい者と神はともにある」と遺言して帰天し、フィナーレでグロリアが大合唱されます。